

# Economic Indicators

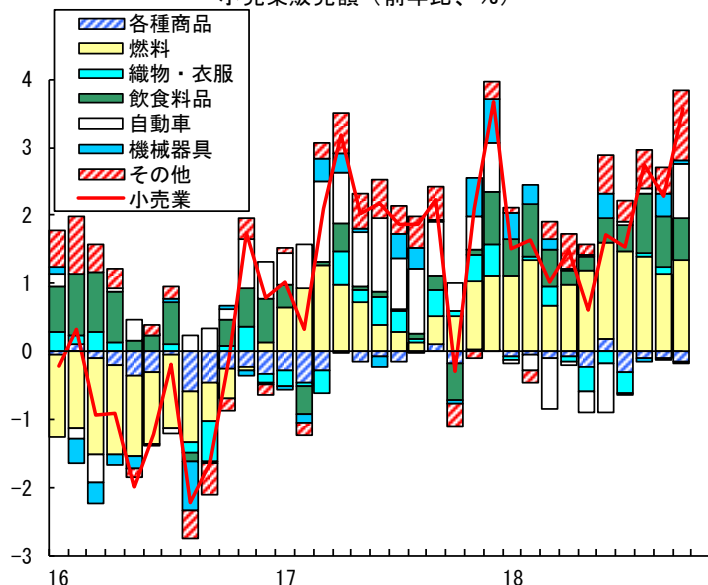
発表日: 2018年11月29日(木)

## 小売業販売額(2018年10月)

～10-12月期の個人消費は持ち直しの公算大～

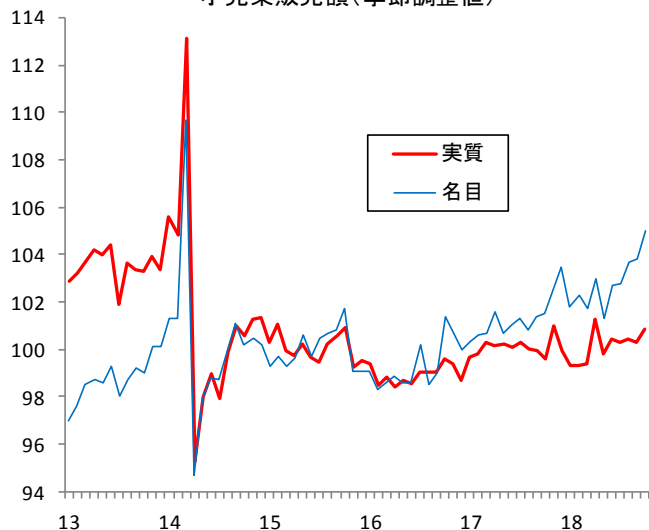
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)

小売業販売額 (前年比、%)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(15年=100) 小売業販売額(季節調整値)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

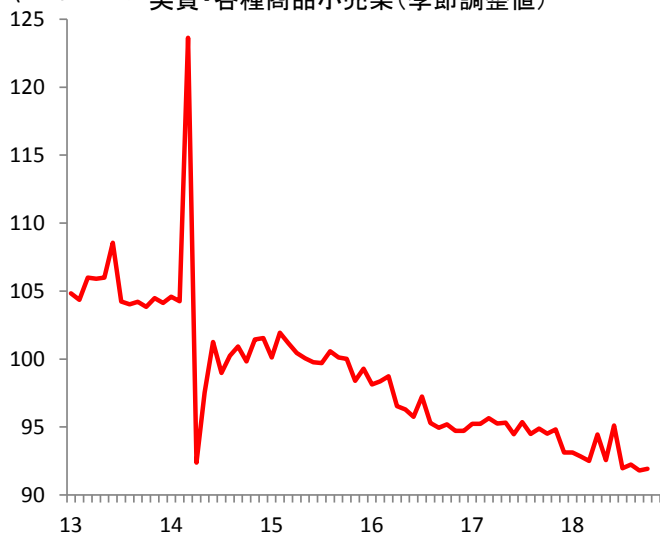
(注) 実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

経済産業省から公表された10月の小売業販売額は前年比+3.5%となった。前月の+2.2%から伸びを拡大させ、市場の事前予想である+2.7%も大きく上回った。季節調整済み前月比でも+1.2%と高い伸びである。10月の小売業販売額も野菜価格や石油製品価格の上昇により見かけ上押し上げられている点には注意が必要だが、価格変動の影響を考慮した実質値(実質化と季節調整は筆者)でも前月比+0.6%とプラスを確保している。名目の+1.2%と比べれば伸びは小さくなるが、それでもはっきりした増加であり、良好な結果と見て差し支えないだろう。9月は台風等の自然災害の影響により下振れていたが、10月は逆に天候に恵まれたことが押し上げ要因になった。気温がかなり高かったことで秋冬物衣料の販売が苦戦した面もあったようだが、全体としてみると良好な天候による外出機会拡大の効果が勝った模様である。なお、小売業販売額は財を対象とする統計であるが、より天候要因が影響しやすいサービス消費についても押し上げが期待できそうで、10月の個人消費は財・サともに持ち直したとみられる。

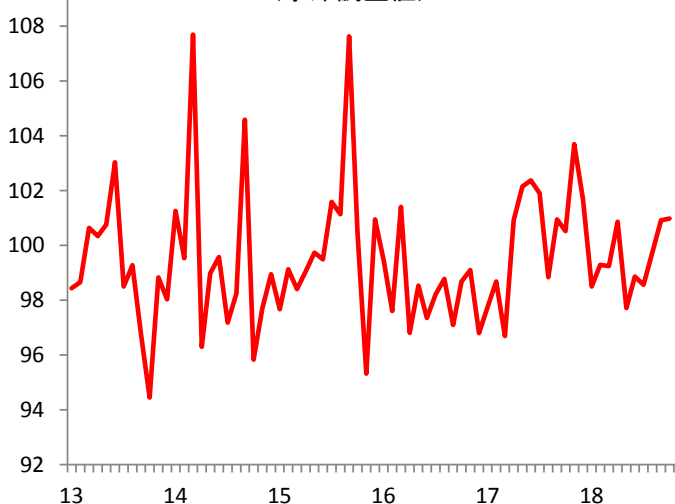
この結果、10月の実質小売業販売額(季節調整値)は7-9月期を0.5%Pt上回っており、10-12月期の消費は良好なスタートをきった。7-9月期には、相次いだ台風等の天候不順による外出機会の抑制に加え、野菜価格やエネルギー価格の高騰などが下押し要因になったこともあって前期比▲0.2%と足踏みとなっていたが、今回の10月分の結果は、10-12月期のリバウンドを期待させるものとなっている。実際、10-12月期については、①7-9月期の天候不順による下押しが解消されること、②高騰

していた野菜価格が10月末以降は落ち着きを見せていること、③原油価格下落に伴ってガソリン・灯油価格が足元で下落に転じていること、④冬のボーナス増加が見込まれること、等、消費を押し上げる材料が多い。あくまで7-9月期の落ち込みの反動の域を出ず、均してみれば緩やかな増加にとどまるといった評価が妥当だろうが、とりあえず10-12月期の個人消費は増加に転じる可能性が高そうだ。海外経済の減速にもなって輸出の増勢が鈍化、景気の回復ペースも鈍るなか、この点は数少ない好材料と言えるだろう。

(15年=100) 実質・各種商品小売業(季節調整値)



(15年=100) 実質・織物・衣服・身の回り品小売業(季節調整値)



(15年=100) 実質・飲食料品小売業(季節調整値)



(15年=100) 実質・機械器具小売業(季節調整値)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。